

○新しい年への挑戦

2019 年は改元の年です。平成から、どんな元号になるのかまだ分かりません。日本の歴史にとっても、大きな選択をする大事な年になっていくことでしょう。私が 2019 年に特に挑戦したい目標を 7 つ掲げました。

1. 「安倍政権の横暴な国会運営に対し、野党はまとまって力を結集しなければ」という皆さんの声に、野党共闘をもう一步進めます。国会では、私たちの会派「無所属の会」が解散して、私は、立憲民主党の会派に合流します。野党の第一会派に合流することで、国会活動を通じて立憲民主党の中から、国民民主党との連携を模索します。

2. 三重県では、両党の協力体制の下で、参議院議員の候補者として「よしの正英」氏を擁立することができました。地方議員の応援も含め、足元で確実に当選を勝ち取っていきます。

3. 憲法審査会のメンバーとして、平和の理念に基づき、自衛隊の専守防衛を貫きます。安倍総理は、最後の任期を見据え、9 条への自衛隊明記を含め、改憲素案のゴリ押しをする覚悟だと思えます。これからの日本にとっても、必要なのは、自衛隊の明記ではなく、専守防衛の明記です。

4. 外国人労働者の問題では、日本の社会で彼らが真に活かされ、自己実現するための総合的な法律の整備が必要だという問題意識が共有されました。私のライフワークの一つとして、以前から取り組んできた 2 つの法律を、議員立法で成立させることに挑戦します。「日本語教育推進基本法」「移民基本法」を、超党派で仲間を作り実現します。

5. 教育の情報化施策にも取り組んできました。「教育の ICT 化推進法」を国会で成立させ、地元の学校でも、これを活用して、教育効果を飛躍的に上げていく土台を作っていきます。

6. 外交では、ミャンマーの少数民族和解、韓国との課題解決への道筋模索と北朝鮮問題、トランプ大統領のアメリカとのパイプ構築など、長年の課題を追います。

7. 地元の夢と課題は、市長さんや地方議員の皆さんとの協働です。リニア、関西線、道路、河川や海岸堤防の改築と防災計画。地域包括ケア、空き家対策、祭り、地元から発信する文化やスポーツ等々、頑張ります。

○リニア新幹線

リニア新幹線の建設が、名古屋と東京間で始まって本格的になってから 4 年になります。財政投融资資金を使うことにしたから工期が 8 年間前倒しになりましたが、名古屋と大阪の間は、路線も確定せず、環境影響調査にも入ってい

ません。私は、名古屋で工事を止めずに、一挙に大阪まで延ばすべきだと思っています。「JR 東海の採算からいっても、大阪に延ばすことが客足を伸ばすことではないか。資金は、財投のように国が保証をすれば、民間の低利資金が使える状況にある。」と言っています。JR 東海は、「名古屋と東京間が精一杯で、これ以上、人と体制を一度に振り向けることができません。」という答えです。「それでは、」と、私がもう一言加えます。「JR 西日本や沿線自治体など、JR 東海が事業を委託することに踏み切れれば、それを担える事業体はあるはず。JR 東海が目一杯だということであれば、建設工事は他に任ずという決断が必要だ。」と説得したいと思っています。

○韓国の憂鬱

日本と韓国の関係が、大審院の徴用工判決や慰安婦財団の解散などが続き、難しくなっています。一方で、観光など人の訪日数は年間 800 万人を超えるなど、韓国国民の日本に対する好感度は上がっていると言います。先日、日韓議員連盟の総会がソウルであり、日本から 30 人の議員が参加して意見交換をしました。私は、この総会の運営委員長という役割で、各分科委員会で議論するテーマや会議の後に発表する共同声明の中身を双方の合意をもって取りまとめる役割を担っています。

特に今回の課題は、両国の間で、一度決着がついたと言われる事柄を蒸し返したと受け取られても仕方ないことなので、韓国側も気を遣っていることが分かりました。韓国の議員は「文在寅政権になり、朴槿恵前政権のやったことを全否定した上で、あらゆる分野で総点検をしています。決して日本の案件だけを狙い撃ちにしている訳ではないので理解してください。」と言いますが、国内の権力闘争のとばっちりだと説明されても、もう一つ納得できないことではあります。

○後援会事務所より

2019 年も恒例の新春の集い、地域懇談会、国政報告会などを予定しております。詳細は鈴鹿事務所（電話／059-381-3513）までお問合せください。

地域の行事、イベントなど、お知らせください。

また、三重県内にお住まいの、ご友人、お知り合いの方をご紹介いただけますと幸いです。

皆さんのあたたかいご支援、ありがとうございます。どうか皆さんにとって、来年もいい年でありますように。